

岩手県感染症週報

令和5年第30週 (7月24日～7月30日)

岩手県感染症情報センター

第30週の概要

1 類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

2 類感染症

- 結核の報告が2例ありました。そのうち1例は潜在性結核感染症でした。

3 類感染症

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例ありました。

4 類感染症

- デング熱の報告が1例ありました。
- レジオネラ症の報告が1例ありました。

5 類感染症 (全数把握対象疾患)

- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例ありました。
- 梅毒の報告が1例ありました。

5 類感染症 (定点把握対象疾患)

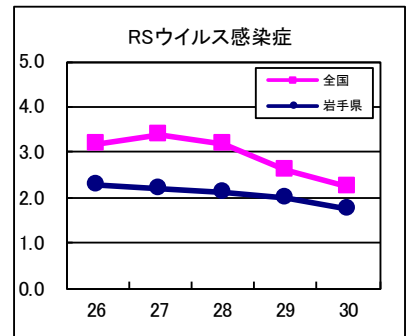
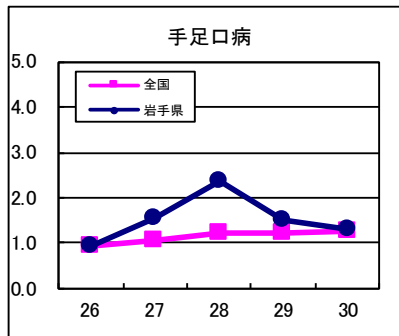
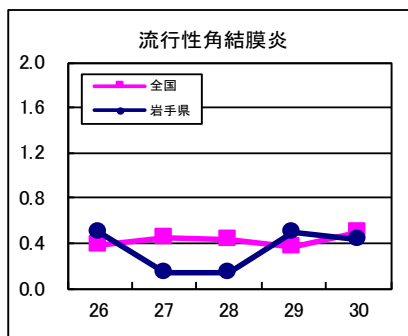
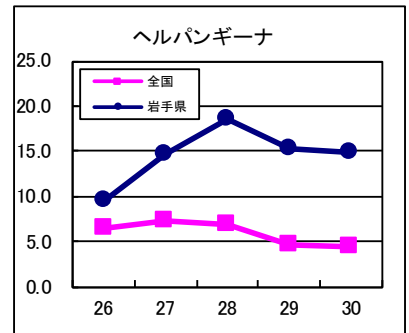
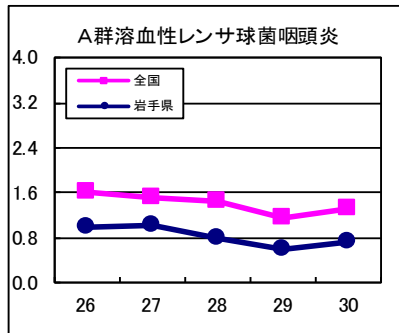
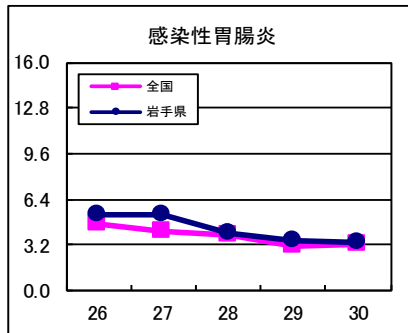
- 新型コロナウイルス感染症は増加し、定点あたり患者数は13.26人となりました。奥州・一関・大船渡地区でクラスターの発生が計4件あり、その内訳は医療施設、学校、教育・保育施設、高齢者施設でした。全国的にも増加しており、夏休みで外出する機会も増えるので、引き続き、手洗い・咳エチケット等基本的な感染予防対策の確認を行いましょう。
- ヘルパンギーナは、依然として警報値の6人を超えていますので注意が必要です。本症は発熱とどの痛み、口内に現れる水疱性発疹を主症状とし、乳幼児を中心に夏季に流行するウイルス性の疾患です。まれに無菌性髄膜炎や急性心筋炎などを合併することがあるので注意が必要です。予防には患者との濃厚接触を避け、手洗いやうがいを励行することが重要です。
- RSウイルス感染症は、県内の多くの地域で発生報告がありました。本症は、乳幼児に多く認められる急性呼吸器感染症です。症状は風邪様から肺炎まで様々ですが、初感染の乳幼児や高齢者では重症化する場合があるので注意が必要です。予防には咳エチケットや手洗いのほか、ドアノブや玩具の消毒も効果的です。

「岩手県・新型コロナ対策
パーソナルサポート
(@iwatevscovid19)
ID検索またはQRコードか
ら友達追加



最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		26	27	28	29	30		
インフルエンザ	岩手県	0.21	0.06	0.10	0.23	0.35	→	☆
	全国	1.26	1.66	1.76	1.59	1.64		
RSウイルス感染症	岩手県	2.28	2.20	2.13	1.97	1.74	↘	☆
	全国	3.17	3.38	3.16	2.59	2.25		
咽頭結膜熱	岩手県	0.23	0.18	0.20	0.15	0.21	→	☆
	全国	0.57	0.52	0.55	0.51	0.53		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.00	1.03	0.78	0.59	0.72	→	☆
	全国	1.60	1.53	1.45	1.14	1.32		
感染性胃腸炎	岩手県	5.35	5.33	4.03	3.54	3.38	→	☆
	全国	4.65	4.13	3.90	3.09	3.26		
水痘	岩手県	0.08	0.15	0.03	0.08	0.03	→	
	全国	0.10	0.12	0.10	0.11	0.10		
手足口病	岩手県	0.93	1.53	2.38	1.51	1.31	↘	☆☆
	全国	0.92	1.07	1.21	1.24	1.27		
伝染性紅斑	岩手県	0.08	0.05	0.08	0.00	0.10	→	☆
	全国	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02		
突発性発疹	岩手県	0.45	0.43	0.38	0.46	0.41	→	☆
	全国	0.30	0.28	0.28	0.24	0.25		
ヘルパンギーナ	岩手県	9.43	14.70	18.50	15.21	14.77	↘	☆☆☆
	全国	6.48	7.32	6.86	4.71	4.34		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.05	0.03	0.03	0.08	0.03	→	
	全国	0.06	0.07	0.09	0.05	0.06		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.50	0.14	0.14	0.50	0.43	→	☆
	全国	0.38	0.44	0.43	0.36	0.50		
新型コロナウイルス感染症	岩手県	6.27	6.73	6.98	10.79	13.26	↗	☆
	全国	7.24	9.14	11.04	13.91	15.91		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.03	0.04	0.05	0.04	0.04		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.11	0.00	0.00	0.00	0.05	→	
	全国	0.05	0.03	0.03	0.02	0.04		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	-	0.00	0.00	-		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	-	0.00	0.01	0.00	0.01		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	0	0		
	全国	60	72	105	93	153		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)	岩手県					全国	
		26	27	28	29	30	累計	30	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	50 (20)	244	7821
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	1
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	23
	腸管出血性大腸菌感染症	0	2	6	1	2	26	131	1615
	腸チフス	0	0	0	0	0	1	1	24
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	6
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	1	9	353
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	32
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	9
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	185
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	7
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	10
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	3	97
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	2
	つつが虫病	1	1	0	0	0	6	1	108
	デング熱	0	0	0	0	1	1	3	51
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	8	189
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	8	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	4	15	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	3	0	0	1	1	14	47	1220	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	8	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		26	27	28	29	30		30	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	1	7	281
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	3	1	149
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	0	0	0	0	5	28	1027
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	1	35
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	0	14	305
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	5
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	1	83
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	2	8	482
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	1	11	555
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	27
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	2	10	314
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	10
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	1	0	1	6	20	1044
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	0	7	224
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	2	1	1	1	1	23	194	8653
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	1	102
	破傷風	0	0	0	0	0	0	4	58
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	77
百日咳	0	0	0	0	0	0	24	534	
風しん	0	0	0	0	0	0	0	9	
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	22	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	1	11	

今注目の感染症

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、乳幼児を中心に夏季に流行する急性のウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏風邪の代表的な疾患です。潜伏期間は2～4日で、主な症状は38℃以上の突然の発熱と咽頭の痛み、口内に現れる小さな水疱性の発疹です。痛みのため食欲が落ち、乳児の場合はミルクを飲むのを嫌がり、脱水症状を起こしやすくなります。まれに重症化し、髄膜炎や急性心筋炎などを併発する場合がありますので、発熱以外に頭痛や嘔吐などの症状が現れていないか注意が必要です。

全国のヘルパンギーナの報告数は、例年5月頃から増加し始め7月頃にかけてピークを迎え、8月頃から減少を始め、10月頃にはほとんど見られなくなります(図1)。2020年から2022年では、新型コロナウイルス感染症に関連する生活様式等の変化により報告数が減少したと考えられ、傾向が異なっています。

一方、県内のヘルパンギーナの報告数は、全国より遅れて増加し始め、同様の流行形態をとることが多いようです(図1及び2)。

今年は例年より早い時期から報告数の増加がみられます。今週の県内各保健所管内ごとの定点あたり患者数は図3のとおりです。

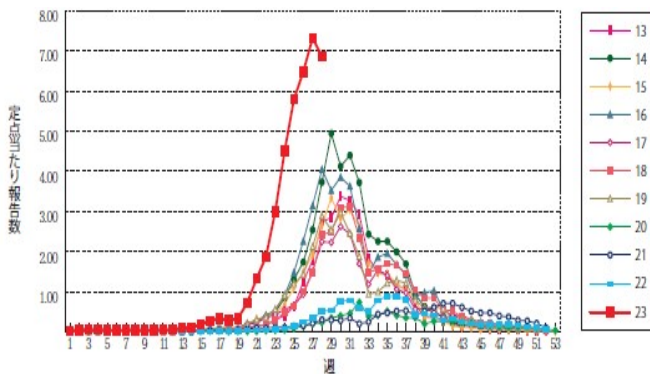


図1 全国のヘルパンギーナの発生状況 (2013年～2023年第28週)
(国立感染症研究所HPより)

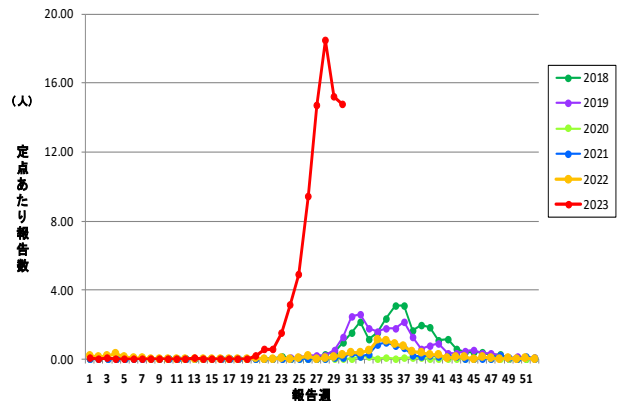


図2 岩手県のヘルパンギーナの発生状況
(2018年～2023年第30週)

今注目の感染症

ヘルパンギーナ (続き)

感染経路は、患者の咳やくしゃみによる飛沫感染や水疱内のウイルスに触れることで感染します。また、ウイルスは便の中にも排泄される(※)ため、トイレに行ったときやおむつを交換する際に接触感染することもあります。

予防には、患者との濃厚接触を避け、手洗いやうがいを十分に行うことが重要です。

※ 回復後も2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあります。

【参考】

- ヘルパンギーナとは (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>

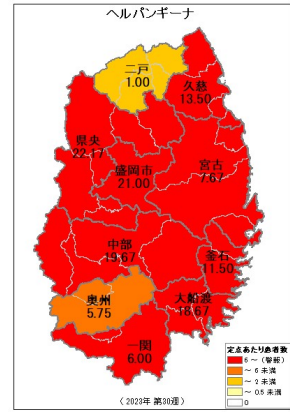


図3 第30週の保健所管内別の状況
 ※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

手足口病

手足口病は、口腔粘膜及び手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とする急性ウイルス性感染症で、コクサッキーA16 (CA16)、コクサッキーA6 (CA6)、エンテロウイルス71 (EV71) などのエンテロウイルスが原因ウイルスです。

本疾患は4歳位までの幼児を中心に夏季に流行がみられますが、学童でも流行がみられることがあります。流行のピークは夏季にみられますが、秋から冬にかけても多少の発生がみられることがあります(図1及び2)。

人から人への感染は、主に咽頭から排泄されるウイルスによる飛沫感染で起こりますが、便中に排泄されたウイルスによる経口感染や水疱内容物からの感染などもあります。発病すると、その病因ウイルスに対する免疫は成立しますが、別のウイルスに対しては免疫は成立しないため、再発することがあります。

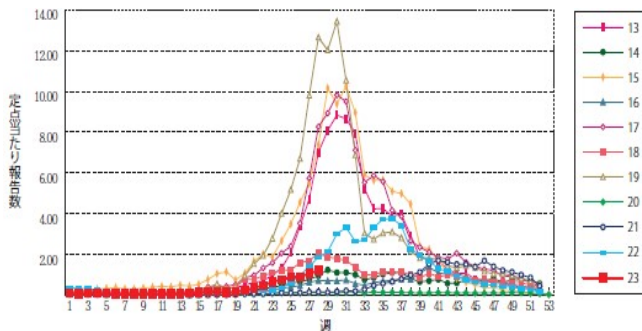


図1 全国の手足口病の発生状況 (2013年～2023年第28週)
 (国立感染症研究所HPより)

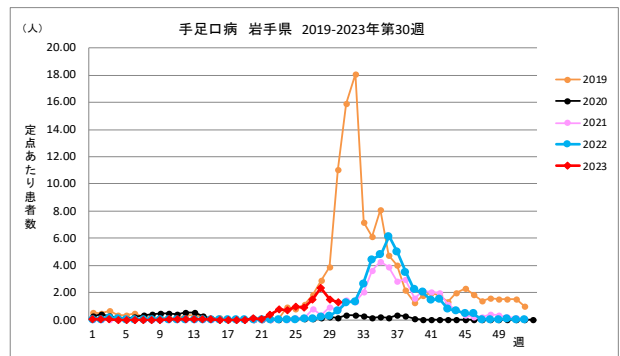


図2 岩手県の手足口病の発生状況

潜伏期間は3～5日で、口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端などに2～3mmの水疱性発疹が出現します。軽度の発熱がみられる場合があり、38℃以下であることがほとんどです。乳幼児では口内の発疹により水分を摂取しにくくなることがあるので水分不足にならないようにすることが重要です。まれに幼児を中心に髄膜炎や脳炎などの中枢神経系合併症を起こすこともあります。

今週の県内各保健所管内ごとの定点あたり患者数は図3のとおりです。

手足口病の予防方法は、有症者の接触予防策及び飛沫予防策、手洗いが重要であり、特に有症時だけでなく回復後も排便後の手洗いを徹底してください。

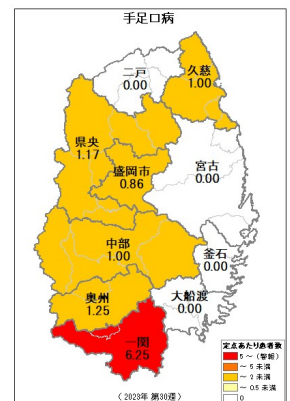


図3 第30週の保健所管内別の状況
 ※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

【参考】

- 手足口病とは (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.html>

今注目の感染症

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスが大部分を占めています。感染性胃腸炎の原因ウイルスは、手指や食品などを介して経口感染し、嘔吐、下痢、腹痛などを引き起こします。健康な人は軽症で回復しますが、子どもや高齢者は重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することがあります。

全国の感染性胃腸炎の報告数は、例年は11月頃から増加して12月にピークを迎えます(図1)。

一方、県内の感染性胃腸炎の報告数は、全国と同様の流行形態をとる年とそうでない年があります(図1及び2)。今冬は2023年第5週にピーク(定点当たり患者数9.93人)が認められました。今週の県内各保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

県内の集団感染事例は、2022年4月から2023年3月までに124例報告されました。内訳は、86例はノロウイルス、28例はサポウイルス、7例はサポウイルスとノロウイルス、1例はヒトパレコウイルス、1例はアデノウイルス、1例はロタウイルスによるものでした。また、2023年4月から第30週までに16例報告されました。内訳は8例はノロウイルス、2例はアストロウイルス、1例はサポウイルスによるもの、5例はその他でした。

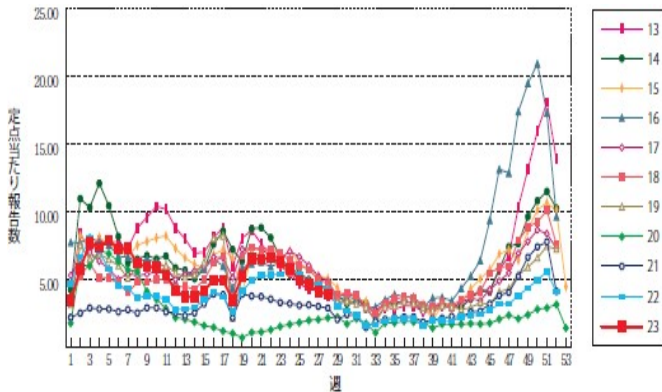


図1 全国の感染性胃腸炎の発生状況 (2013年～2023年第28週)
(国立感染症研究所HPより)

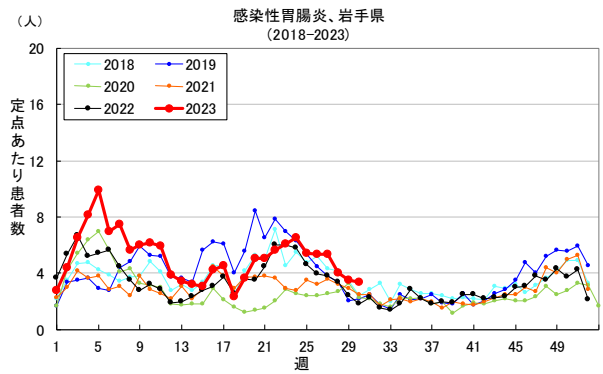


図2 岩手県の感染性胃腸炎の発生状況 (2018年～2023年第30週)

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染する特徴があります。学校や教育保育施設、老人福祉施設などの集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。

ウイルス性胃腸炎の予防方法は以下のとおりです。

- (1) 用便後、調理前、食事前には石けんと流水で十分な手洗いを行う。
- (2) 調理する場合、加熱が必要な食品は85～90℃・90秒以上で十分加熱する。
- (3) 嘔吐した場合は、部屋の換気を十分にしながら、マスクや使い捨て手袋を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した器具を塩素系消毒剤で消毒する。
- (4) 嘔吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

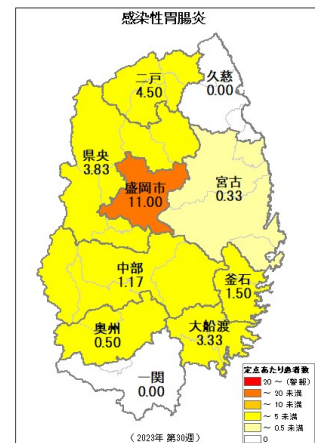


図3 第30週の保健所管内別の状況

【参考】

感染性胃腸炎とは (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/383-intestinal-intro.html>

ノロウイルスに関するQ&A (厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

つつが虫病

つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシの幼虫に吸着されることで感染します。ツツガムシは、ダニの一種で、野山、田畑及び河川敷などに生息しています。ツツガムシは一世代に一度だけ、卵から孵化した後の幼虫期に哺乳動物に吸着し、組織液を吸います（図1）。潜伏期間は5～15日間で、主な症状は高熱（38～40℃）、発疹、頭痛で、ツツガムシによる刺し口（写真1）があることが特徴です。つつが虫病は、治療が遅れることで重症化・死亡することもあるため、疑わしい症状が出た際は早期に受診し、野外活動（農作業や山菜取り、山や河川でのレジャーなど）について医師に伝えることが重要です。

全国的には5～6月と11月～12月に患者が増加しますが、東北では雪解け後の5～6月に患者が多くなります。岩手県では、2021年に7例（4月1例、5月4例、6月2例）、2022年に2例（5月1例、6月1例）、2023年は7月までに6例（4月1例、5月3例、6月2例）の報告があり、野外活動の際には注意が必要な感染症です。

つつが虫の予防には、吸着を防ぐことが最も重要です。病原体を持ったツツガムシの幼虫が、衣服の隙間などから体表面の柔らかい部位（わきの下、内股、陰部、下腹部など）にたどり着き、体液を吸うことで感染します。一方、ツツガムシの幼虫が取り付いてから吸着するまでに、6時間以上かかるとされています。これらのことから、野外活動の際には、以下の対策をとるよう心がけましょう。

- ① 長袖、長ズボンに足首までを覆う靴を履き、素肌をさらさないこと。
- ② ディート又はイカリジンを含有した虫よけ剤を使用すること。
- ③ 帰宅後は、すぐに入浴、洗濯をすること。

【参考】

- ・ ツツガムシ病とは（国立感染症研究所）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>
- ・ マダニやツツガムシによって媒介される感染症について（岩手県）
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyuu/iryuu/kenkou/jouhou/1003107.html>

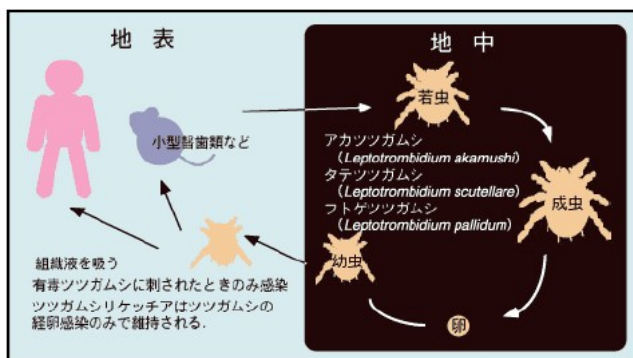


図1 ツツガムシの生活環
 (国立感染症研究所ホームページより)



写真1 ダニの刺し口
 (国立感染症研究所ホームページより)

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。令和3年2月13日に指定感染症から新型インフルエンザ等感染症になり、令和5年5月8日からは五類感染症になりました。

国内の発生状況は図1（厚生労働省HPより）のとおりです。岩手県では、県内初の報告が2020年7月29日に2例あり、2020年は394例、2021年は3,101例、2022年199,642例の報告がありました。2023年は第18週までに34,982例が報告されています（図2は年齢層別）。

2023年第19週からは全数把握対象疾患ではなく、定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

第19週以降の県内の定点あたり患者数は、図3のとおり、第30週の県内保健所管内ごとの定点あたり患者数は図4のとおりです。予防には、咳エチケットや手洗いなど普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

※本文中の県内患者報告数は、該当年の第1週から最終週までの累計となります。詳細は国立感染症研究所HPの報告週対応表を御覧ください。
報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>



<<<岩手県の電話相談窓口>>>

○いわて健康フォローアップセンター

受付時間 24時間 全日（土日・祝日含む）
TEL:0570-089-005 FAX:050-3730-7658

- ① 発熱等の症状が生じた場合は、まず「かかりつけ医」に電話でご相談ください。
- ② 相談先に迷う場合や「かかりつけ医」がない場合は、上記フォローアップセンターにご相談ください。
- ③ ①又は②での紹介・案内に従い「診療・検査医療機関」を受診してください。

詳しくは、岩手県の新型コロナウイルス感染症のホームページを御覧ください。
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/index.html>

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

◆参考

新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

新型コロナウイルス（2019-nCoV）関連情報について
－国立感染症研究所－

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html>

図1 全国の新型コロナウイルス新規陽性者数（～5/7）

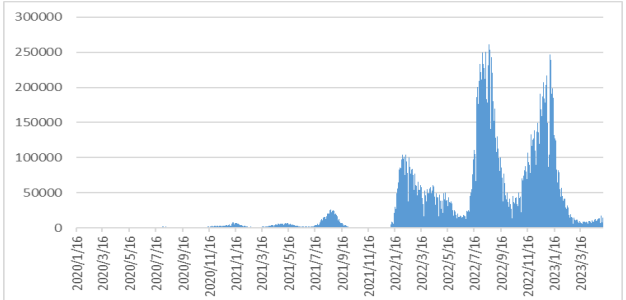
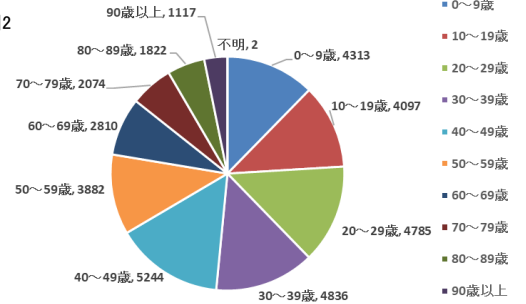


図2



岩手県における新型コロナウイルス感染症の報告数
年齢層別 2023年第1週から第18週まで、N=34,982

図3 COVID-19、岩手県(2023第19週～)

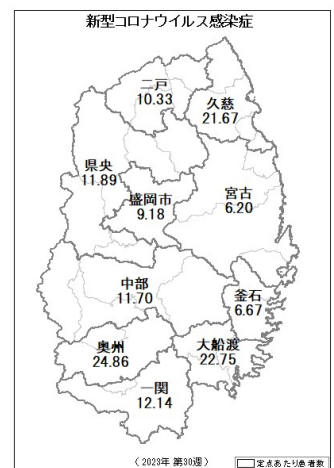
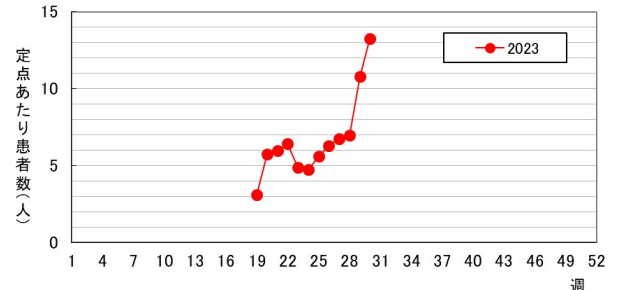


図4 第30週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

集団感染情報

○新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について(令和5年8月2日発表分)

- ・岩手県 4件
- ・盛岡市 0件



病原体検出情報

- ・ヘルパンギーナの患者の咽頭ぬぐい液からコクサッキーウイルスA4、パレコウイルス1型及び溶血性レンサ球菌をそれぞれ1件検出しました。
- ・ヘルパンギーナの患者の咽頭ぬぐい液からRSウイルスを1件検出しました。
- ・ヘルパンギーナの患者の咽頭ぬぐい液からコクサッキーウイルスA4を1件検出しました。
- ・ヘルパンギーナの患者の咽頭ぬぐい液からコクサッキーウイルスA4及びアデノウイルス2型をそれぞれ1件検出しました。

医療機関からの情報

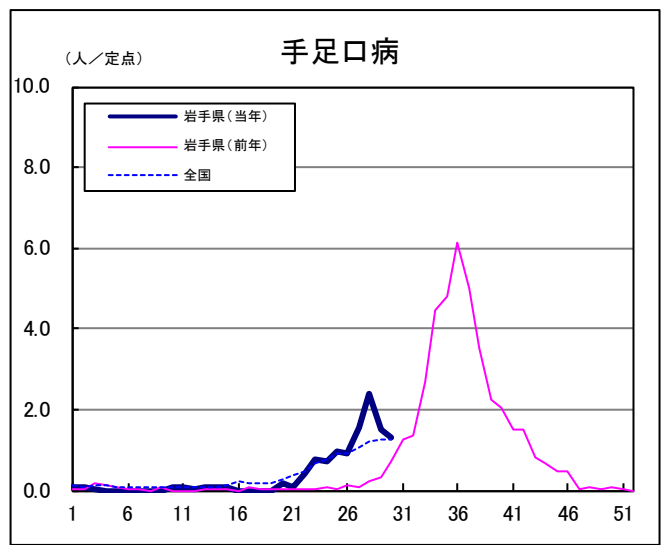
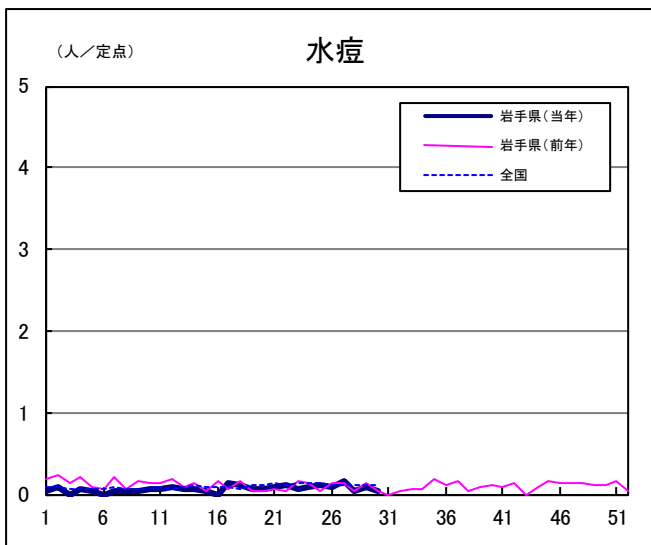
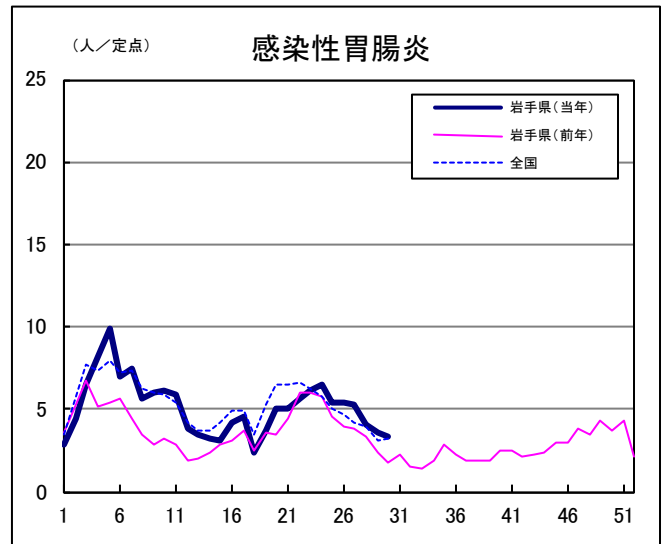
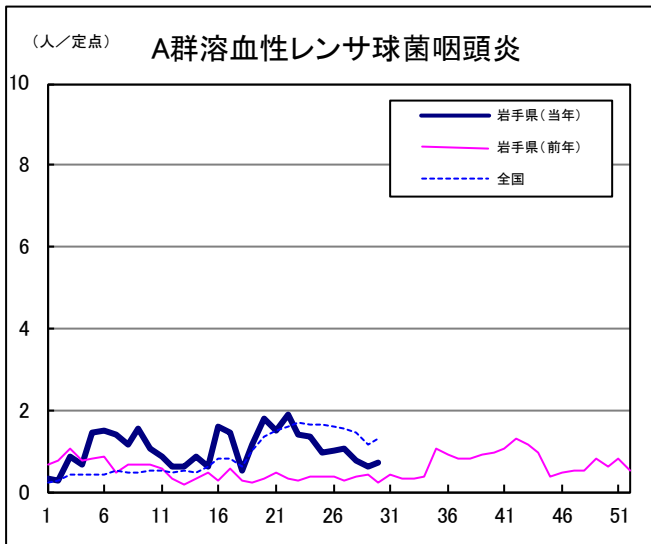
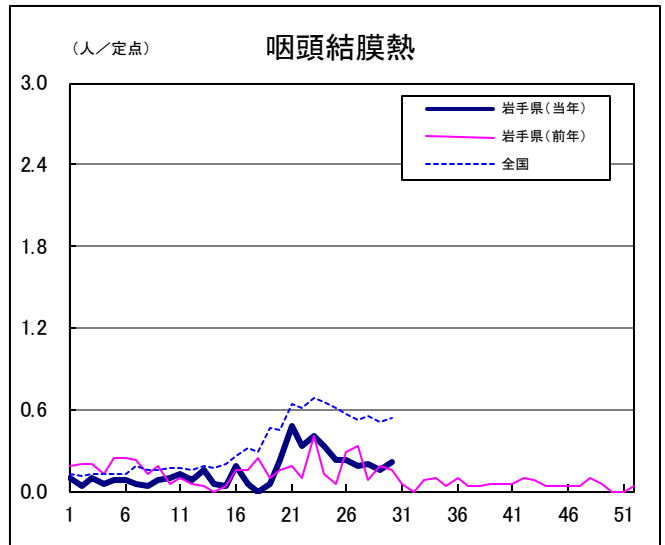
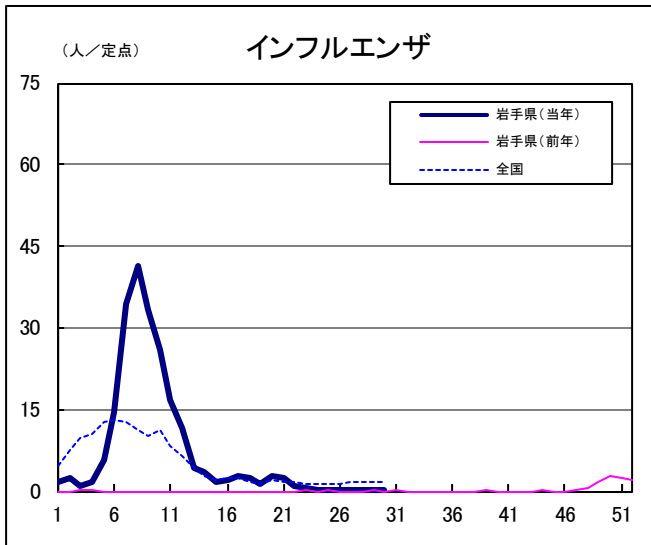
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

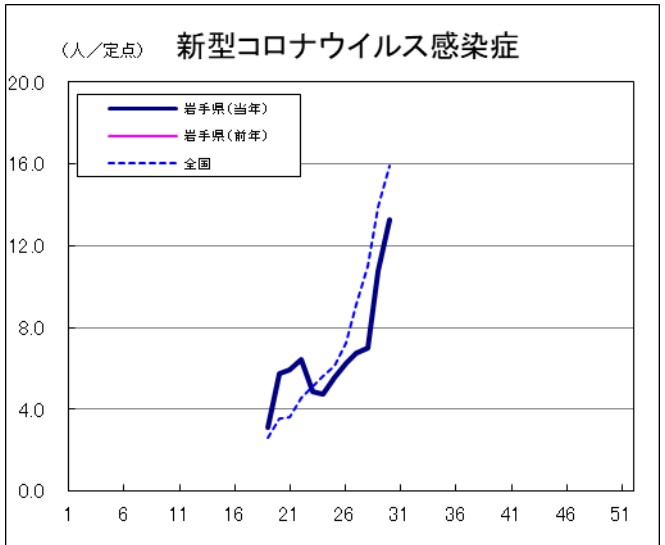
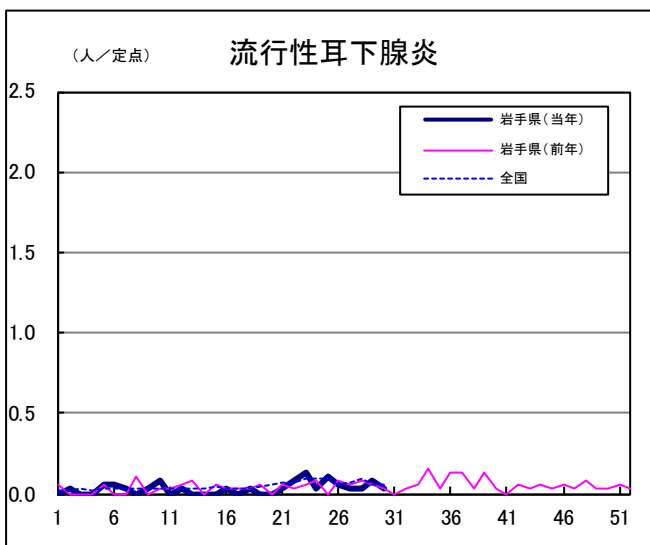
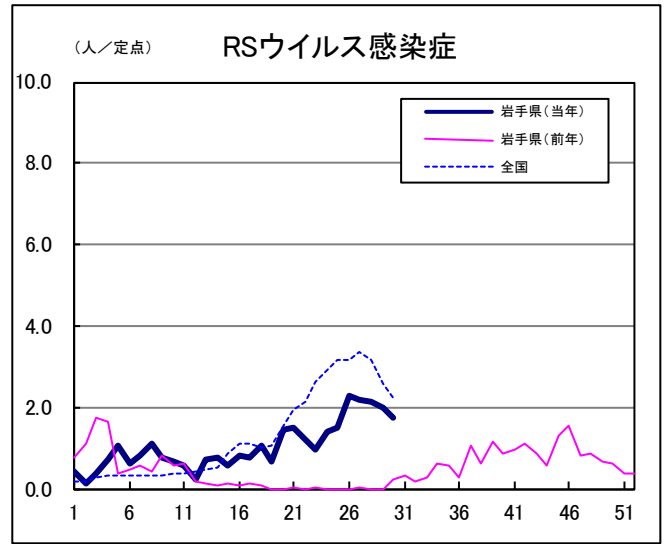
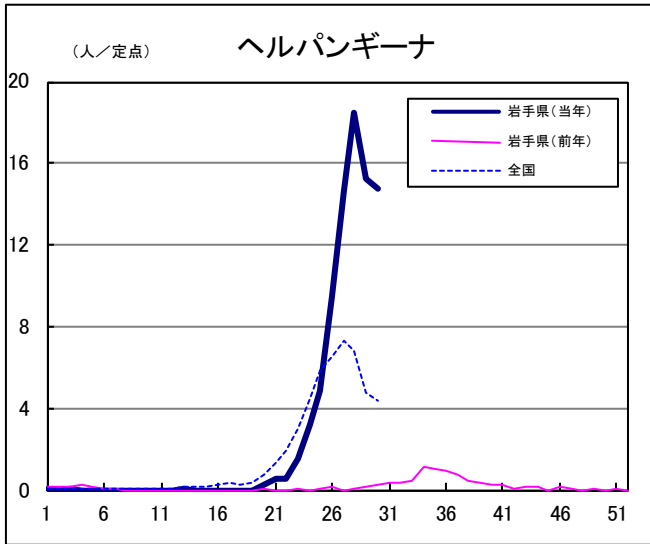
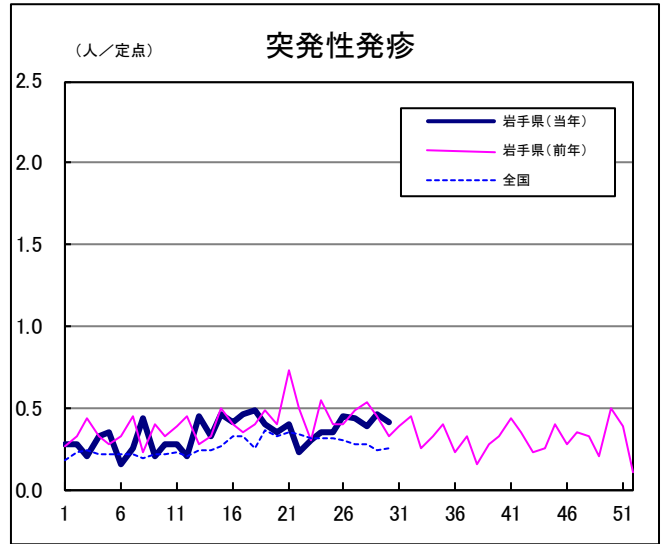
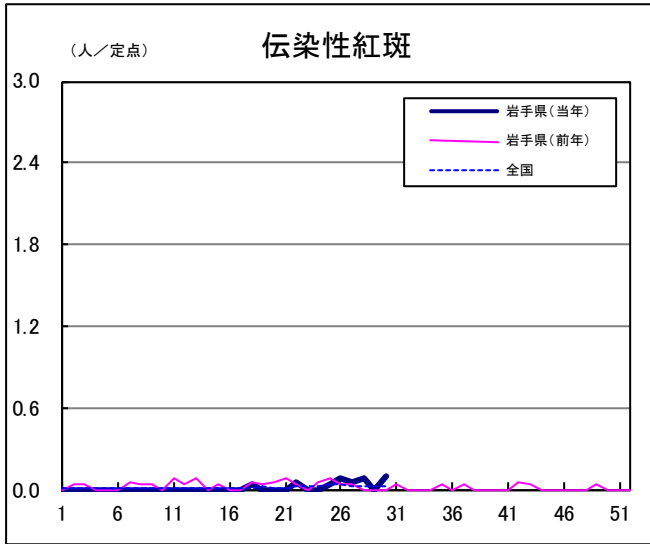
Q & A

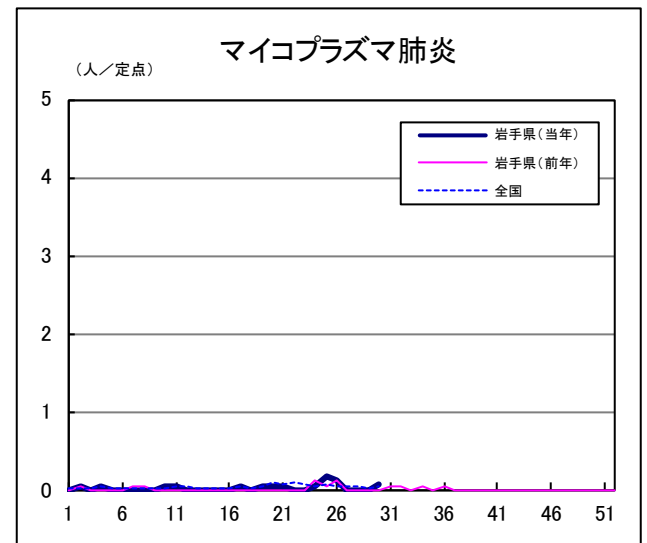
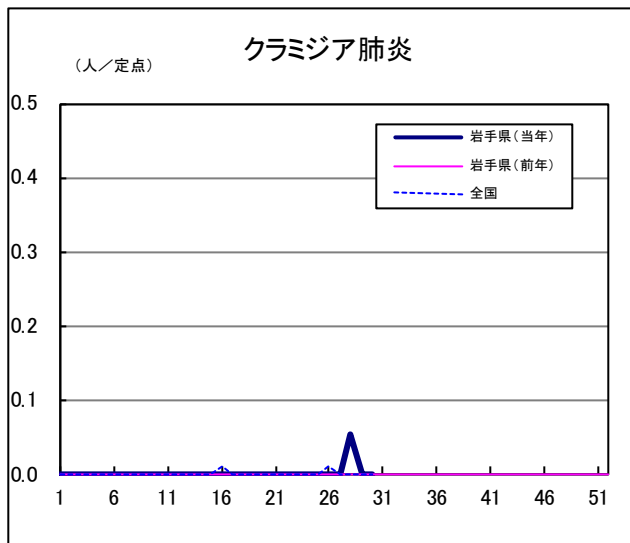
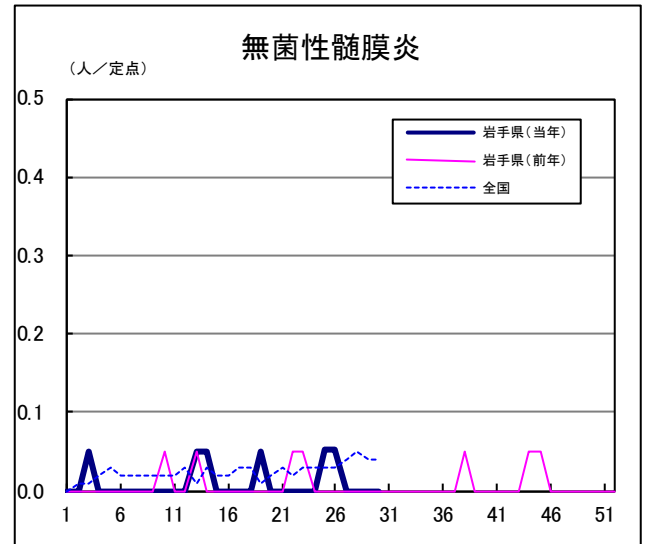
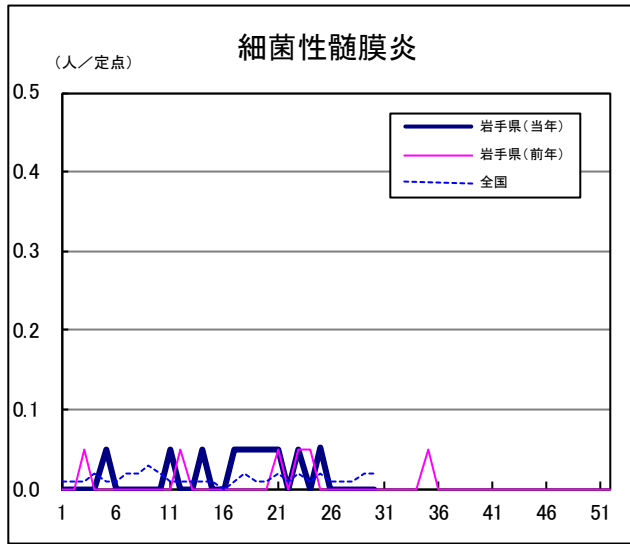
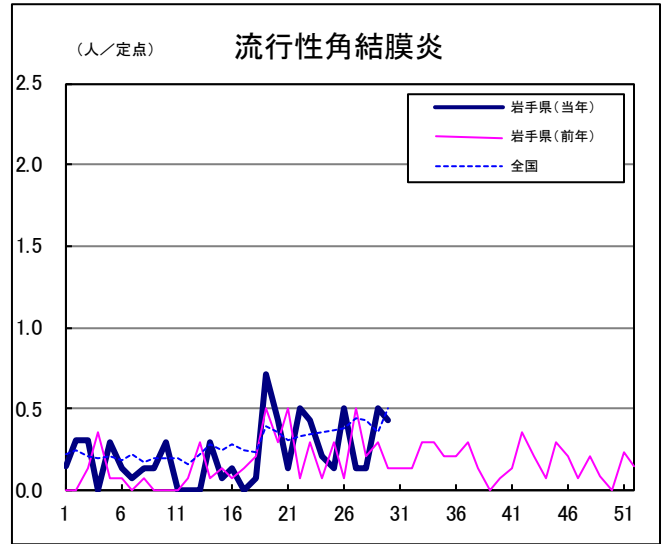
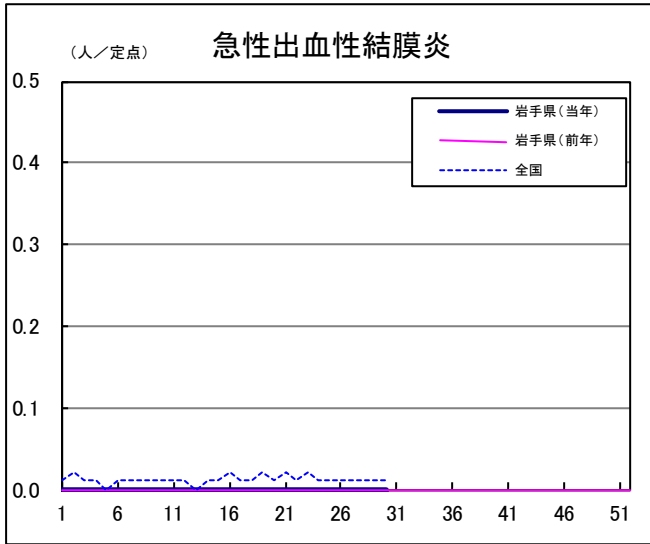
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフルエンザ /COVID-19	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	62	39	14	19
盛岡市	11	7	3	4
県央	9	6	2	1
中部	10	6	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	4	3	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和5年第30週 令和5年8月4日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>